

2学期始業式校長講話(全校放送)

全校の皆さん、おはようございます。また放送での始業式となりましたが、みなさんそれぞれが、新たな気持ちで今日を迎えてほしいと思います。

先ずは、3年3組の山岸琴美さんが、夏休み中に長野で行われたインターハイ全国大会で、100メートル、200メートルバタフライで全国1位の二冠を獲得されました。これがどれだけすごいことなのか、たとえば高校野球で春と夏と続けて全国優勝するくらいのことなのです。あまりプレッシャーをおかけしたくはないのですが、応援団の一人として、3年後のパリオリンピックでは、ユニフォームに日の丸をつけての泳ぎを見たいものです。本来ならば、大会からお帰りになった時に、みなさんでお出迎えし、その栄誉を讃えたかったのですが、今回は残念ながら、それが出来ません。この後、生徒会長さんの放送にてよろしく申し上げます。

そして、その他の全国大会に出場した、個人や団体の皆さん、それぞれが目標として掲げたところまで行けた人も行けなかった人も、その全国の舞台に立てた事は、あなたのこれからの人生の大きな糧になるでしょう。いや、それを自分の糧にして欲しいと思います。

また、全国に行けなかった人も、学校に毎日通って、クラブ活動や受験勉強をコツコツと頑張った人、周りからは目立たない行動でも、自分の信念に基づき、何かをやり遂げた人もいるはずです。私は、そんな小さな努力を、この長い夏休みの中で積み上げた人に対しても「頑張りましたね！」という気持ちを伝えたいと思います。全て、この後の結果に現れてくるはずです。「努力は報われる」という言葉があります。この言葉をそのまま私たちの学校での教え、浄土真宗の教えに即して解釈すると、「『努力はしても報われない』事も多くありますよ、ということを知りなさい。」となります。私も若い頃に全国を目指してクラブ活動をやっていた中で、昔の気持ちを思い起こしてみると、努力したことで報われようと、報われるために毎日頑張ってたかと言うと少し違ったように思います。その時の気持ちは、ただ努力する事だけに専念していただけなのです。だから、その後に報われたかどうかは、勝った負けたの世界ではなく、その後の結果をどう自分の人生、それと共に、自分を取り巻いている周囲の人たちに取り入れて使ってきているかと言うことです。そう言うことから考えると「努力」と「報われる」と言う二つの言葉は、繋がるかどうかは自分次第だと言うことになります。まずは「努力」しないと何も始まらない事だけは確かな事なので、今後も皆さん一人ひとり「努力」を続けて欲しいと思います。

さて次に皆さんに残念な報告をしなければなりません。2学期に入って直ぐに行われる事になっている合唱コンクールの事です。休み中にお昼頃になると学校の何処からか歌声が聞こえて来ていました。夏休み中に登校してコンクールの練習をしていたクラスもあるようですが、このコロナの影響で、今年は、残念ですが、中止とさせていただきます。中止と延期は違います。中止ですから、今年はこの行事を行わないということです。早い段階で歌う曲を決め、伴奏者や指揮者を決める時にもいろいろ悩まれた人や、そのクラス、クラスをまとめる合唱コンクール執行委員の人、そして、クラス担任の先生方には、誠に申し訳のない事ですが、このコロナの状況下では、行わない方が良くと判断させていただきました。一つ一つの行事にはその行事を行う意味があります。本校は、行事も大切にきています。行事を通して、あなたやあなたの属する集団が大きく成長していきます。その成長よりも、今回は、命を守る事を第一としました。それぞれの立場で、この行事の中止の重さをしっかりと受け止めてください。なお、音楽の先生には、どんな形でもいいので、やってきた成果を周りに発表する時間を設けて欲しい事を伝えています。今後、今出来る事の範囲でということになりますが、皆さん、その時には宜しく願いしま

す。また既に行っていただいておりますが、クラブ活動も条件をつけ認めている団体もありますが、基本的には、すべて活動止めています。

今日から2学期が始まりますが、この2学期が終わる頃には、コロナとの付き合いも、まる2年となります。今やデルタ株が猛威を奮っています。若い人にも移るということです。もちろんこれはお年寄りからワクチンを打っているのです、私も含めて、お年寄りがかからないか、かかっても比較的軽症で済んでいると言う事にもつながっていると思いますが、それでも、若い人が多くうつっている事は事実です。

私は、この学校の校長という仕事の立場であえて言わせていただくと、本校の生徒や先生達、そしてそのご家族からもコロナにかかったと言う連絡を受けるのは、私自身も含めて、時間の問題だろうと考えています。大切にしたいのは、今、このときの、たとえば今日の行動です。本校は、命を大切にする事を第一に考えています。そこから考えるなら、今出来ること、マスクをちゃんとつける、人混みを避ける、食事の時に黙って食べる、大きな声を出さない、など、全部、命を大切にする一歩です。自分がかからない、これぐらい大丈夫、みんなやっている、自分のやりたいことだけを最優先するなど、すべて、自分と大切な人を守れない事につな

がっています。今しばらく、自分をコントロールして欲しいと思います。コロナにかかったことよりも、今、どんな行動を取るかが大切なのです。

それでは、1年で一番長い学期、気温がもっとも変化する学期、3年生の多くは、自分のこれからのことを決定する学期のスタートです。

先が見えている人は、そこを目指して。見えていない人は、まず自分の足下を見て、小さいながら、前に向かってその一歩を踏み出して下さい。

令和3年8月30日 校長 有馬 乃